

♥♥♥♥♥ことばを育てる親の会北海道協議会

♥♥♥♥♥HSK ♥♥♥♥♥

HSK

会 報

昭和48年1月13日第三種郵便物承認 HSK通巻第639号

(毎月10日発行) 2025年6月10日発行

発行人 北海道障害者団体定期刊行物協会(HSK)

編集人 特定非営利活動法人

ことばを育てる親の会北海道協議会 会長 山本光子

連絡先 〒060-0041 札幌市中央区大通東6-12

札幌市立中央小学校ことばの教室内

TEL 011-241-2533 定価100円

♥♥♥♥♥ 2025. 6. 10 ♥♥ No. 190 ♥♥♥♥♥

今年もよろしくお願いいたします



NPO 法人 ことばを育てる親の会北海道協議会

会長 山本光子

(栗山町ことばを育てる親の会 会長)

青葉茂れる日々、地区会員の皆様にはお忙しくお過ごしのことと存じます。過日、当ことばを育てる親の会北海道協議会の定期総会では、会場とWEB参加及び委任状にて、議事全般が承認され終了いたしましたことを厚くお礼申し上げますとともに、各関係機関の皆様には御臨席を賜りお言葉を頂戴いたしましたことを深く感謝申し上げます。

昨今の少子化現象・世情の不安定な中、子どもから大人まで生きていくことに難しさを感じます。現役で子育ての中の保護者、またそれを支えている支援者(家族・指導者)は先の見えない子どもの未来に希望を抱きながらも不安も同じくらい感じていると思います。今や、大人たちだけではなく子どもたちも時間に追われ、心身にゆとりを持つことも厳しい世の中です。暮らしの全般がデジタル化して、24時間情報が飛び交い錯綜し、子どもたちの健やかな成長にどう関わったらよいのでしょうか。子どもたちの成長に、今何が一番必要か、大人たちが今何をすべきかを再認識し行動することが求められると思います。

私たち一人一人の力は弱いですが、ことばの親の会を通じて関わり合った者同士、難事を共有し手を取り合い活動し、子どもたちの成長を見守りたいものです。そのために、当協議会としても、各地区の親の会との関係を重んじ活動を続けて参りたいと思いますので、これからも忌憚のない御意見と御指導をお願いいたしますとともに、各地区親の会活動の御隆盛を祈念いたします。



令和7年度 定期総会報告

全議案 満場一致で承認される

さわやかな風にライラックの花が揺れていた5月17日（土）午前10時から、道民活動センターかでの2・7、1040会議室を会場に、令和7年度定期総会が開催されました。今年も会場出席とズームによるリモート出席のハイブリッド形式での開催となりました。

以下、定期総会議案書ならびに議事録に基づいて報告をします。

瀧澤理事の開会宣言の後の会長、御来賓の方々の挨拶に続いて、互選により議長に札幌地区の相蘇実裕氏が選任されました。次に議長は議事録署名人として会場に出席の名寄地区塚本英恵氏の選任を提案し、承認されました。議長より正会員総数28地区のうち、会場参加2地区、ウェブ参加4地区、書面による委任が16地区合わせて22地区の参加により正会員総数の過半数を超えていることから、総会が成立していることが告げられ、議事が開始されました。



議事1では山本会長によって令和6年度実施した6事業や活動経過の報告がなされ、承認を得ました。

議事2では齊藤理事によって令和6年度決算報告がなされ、令和7年4月27日に実施された菅原有美監事、秋本ひとみ監事による監査報告が、監事代理の福島理事によってなされ、承認されました。

議事3では山本会長によって令和7年度事業・活動計画案が提案され、5点にわたる方針案とともに前年度より1事業増の7事業計画が承認されました。

議事4では齊藤理事によって前年比約8万円減の令和7年度予算案が提案され、承認されました。

議事5では今後も理事会において全道大会について検討を行い、次年度総会において諮る意向であることが承認されました。

議事6では山本会長より令和7年度事務局員について承認を求めたところ、新任の3名を含む7名の事務局員が承認されました。

議事7として、議長はその他の議案の提案を確認したところ、提案はありませんでした。

議長は以上をもって令和7年度総会の議事はすべて終了した旨を述べ、議長解任となりました。

その後、10時42分をもって、令和7年度総会の閉会が瀧澤理事により宣言されました。

（文責 理事 福島 美恵子）





ご来賓の方々の御挨拶



「子どもを中心に据えた特別支援教育の推進」

北海道教育庁学校教育局特別支援教育課

課長補佐 津 川 周 一

令和7年度、特定非営利活動法人ことばを育てる親の会北海道協議会定期総会の開会に当たり、御挨拶を申し上げます。

貴会におかれましては、保護者や関係者の緊密な連携の下、ことばに心配のある子どもたちの幸せのため、60年以上の長きにわたり様々な活動に取り組まれており、このことに対して敬意を表する次第です。

さて、現代社会は、深刻さを増す少子化・高齢化や生成AIなどデジタル技術の発展といった大きな変化があいまって、社会や経済の先行きに対する不確実性がこれまでになく高まっており、これからの我が国を担う子供たちは、激しい変化が止まることのない時代を生きることになります。このため、子どもたちが、国外に出て行く機会が増える一方、日本社会の内なるグローバル化が進展し、デジタル化の負の側面等も顕在化する中、異なる価値観を持つ多様な他者と、当事者意識を持って対話を行い、問題を発見・解決できる、「持続可能な社会の創り手」を育てる必要性がこれまで以上に高まっていると考えられます。

一方で、習得した知識を現実の事象と関連付けて理解すること、生成AIには扱えない概念としての知識の習得や深い意味理解をすること、自分の考えを持ち、根拠に基づいて他者に明確に説明すること、自律的に学ぶ自信がある生徒が少ないこと等に依然として課題が見られています。

このような中、ことばに心配をもつ子どもたちに対し、これからの時代を生きていく力を育成していくためには、学校単独で指導を行うだけでなく、多くの関係者が連携しながら支えていくことが重要です。

このような中、道教委では、令和5年度から9年度を計画期間とした「特別支援教育に関する基本方針」を踏まえ様々な取組を展開しております。これを踏まえ、特別支援教育課では、本年度の重点事項を「子どもを中心に据えた特別支援教育の推進」とし、「こどもまんなか」で各種事業を推進してまいります。とりわけ、ことばに心配のある子どもたちにかかわる取組としては、昨年度から文部科学省の委託を受けて実施している、「効果的かつ効率的な巡回指導の実施に向けたモデル構築事業」において、通級指導の質の充実を図るとともに、より多くの地域で学んでいる子どもたちが通級による指導を受けられるための体制整備などに取り組んでおります。

こういった事業の成果を地域生活で生かしていくためには、学校と家庭、地域の連携が不可欠であり、こういった点からも、本会の取組は子どもたちの生活や活動の充実はもちろん、それを支える保護者にとっても大変貴重なものであると確信しております。

本日の定期総会では、本年度の事業計画に係る審議等が行われると承知しておりますが、本年度の取組のスタートにつながる充実した機会となることを期待しております。

結びに、今後も、貴会のより一層の発展を御祈念申し上げますとともに、御参加の皆様の御健勝をお祈り申し上げ、開会の挨拶とします。



北海道子ども基本条例の制定等について

北海道保健福祉部子ども政策局子ども家庭支援課

課長補佐 古 俣 亮

ライラックが咲き誇る素晴らしい季節を迎え、本日御来賓や関係の皆様も出席のもと、令和7年度ことばを育てる親の会北海道協議会定期総会が開催されますことを心からお祝い申し上げます。

また、山本会長をはじめ、役員の皆様、会員の皆様には、日頃より本道の障がい福祉行政の推進に御理解、御協力をいただいていることに厚く御礼を申し上げますとともに、ことばやきこえなどに心配のあるお子さんの教育や福祉向上のため、特別支援教育研修会や親子キャンプ、WEBを活用した意見交換会等に積極的に取り組まれていることに、改めまして敬意を表します。

さて、道では、子ども施策に係る基本理念等を広く道民の皆様と共有し、地域社会が一体となって取り組む環境を整備するため「北海道子ども基本条例」を令和7年4月1日に施行するとともに、こどもの誕生前から青年期のライフステージを通した各種施策を着実に推進するため「北海道子ども計画」を策定いたしました。

この計画では、聴覚に障がいのあるお子さんについては、早期に聞こえにくさに気づき、ことばや知識を学ぶための適切な支援を行うことが重要であることを踏まえ、難聴児支援のための中核的機能を有する体制の確保等に向けて令和6年10月に北海道難聴児支援推進協議会を設置するとともに、新生児聴覚検査から療育までを遅延なく円滑に実施するため、道が作成した「お子さんの「きこえ」の手引き」を周知するなど早期に療育につなげる取組を進めることとしております。

さらには、北海道教育委員会と連携して、市町村の子ども発達支援センター等の関係職員に対して、難聴に関する基礎的な事項を伝達する研修や個々のケースに応じた対応能力の向上を図るための研修を道内各地域において実施するとともに身近な地域で専門的な療育を受けるのが難しいお子さんについては、聾学校教諭や道立施設の言語聴覚士を派遣し、地域の事業所での療育を個別に支援する事業を実施しております。

御案内の通り、国では5月を「春のこどもまんなか月間」とし、「こどもまんなか応援サポーター」をはじめ、企業・団体・自治体と連携し、子どもや子育て世帯を社会全体で応援する機運づくりを進めているところですが、障がいのあるこどもたちやその保護者に寄り添い切れ目のない支援が提供できますよう、地域における様々な機関や関係団体の皆様との協働により取組を進めてまいりたく、引き続き、皆様の御理解と御協力を賜りますようお願い申し上げます。

結びになりますが、ことばを育てる親の会北海道協議会の益々の御発展と本日お集まりの皆様様の御健勝をお祈り申し上げ開会の挨拶といたします。



成長を支えて行くために力を合わせて

北海道言語障害児教育研究協議会（道言協）

会長（札幌市立ひばりが丘小学校長） 小 松 直 毅

日頃より、北海道言語障害児教育研究協議会 通称 道言協の活動に対しまして、特定非営利活動法人ことばを育てる親の会北海道協議会の皆様より、厚い御支援・御協力をいただき、大変感謝しております。

私ども道言協は、小中学校の教員、幼児ことばの教室担当者、子ども発達支援センター・病院等各関係機関の職員で構成された、北海道におけることばやきこえの教室の教育や療育を充実させるための研究組織です。例年秋には全道から研究成果を持ち寄って、地区持ち回りで大会を開催しております。60年近くの歴史がある当会ですが、昨年は、全道大会を苫小牧・白老大会として苫小牧市で開催しました。親の会の皆様、ことに苫小牧市、白老町の親の会の皆様には、当会の研究大会に向けて強く温かく支援してくださっていたことと存じます。ここにお礼を申し上げます。ありがとうございました。なお、今年度は渡島桧山ブロック函館市におきまして、9月27日に研究大会を予定しております。御支援よろしく願います。

令和3年1月26日の中央教育審議会において、「令和の日本型学校教育」の構築を目指して、全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現が取りまとめられました。それを受けて、特別支援教育を担う教師の専門性向上が今日も掲げられております。

当会としましても、全道の会員に向けて、専門性向上を目指し、情報の発信、研修会の充実に努めております。例年7月ごろには、ことばを育てる親の会の皆様と共催で言語臨床研修会を行わせていただき、子どもの言葉を育てることのみならず、子育て全体について共に学ばせていただいております。今後ますます、当会会員がお子さんの担当者として、お子さんの全体像をしっかりとらえ、その子を取り巻く人々、とくに保護者のみなさんや在籍校と共通理解を図っていくことが必要とされていると考えております。今後も御支援いただきますよう、願います。

特別支援教育、さらには通級による指導に関わる大きな変化の中で、私たち担当者は、特別支援教育に寄せられる期待の重さをしっかり受け止めながら、一人一人の教育的ニーズに合わせた支援・指導を進めていきたいと考えております。

お子さんの心配の改善と健やかな成長のためには、保護者の皆さんからの情報や連携とともに、親の会の活動などを通じた、保護者同士のつながりや情報交換の場をもつことが不可欠であると考えています。親の会の活動とことばやきこえの教室の指導が、両側からお子さんの成長を支えて行くために、力を合わせて行けたらと考えております。

結びになりましたが、本日は、令和7年度 ことばを育てる親の会北海道協議会 定期総会の開催、誠にありがとうございます。今後とも、道言協の活動に対しまして、変わらぬ御理解と御協力をお願いするとともに、ことばを育てる親の会 北海道協議会の今後の発展を祈念いたしまして、御挨拶とさせていただきます。



「親子キャンプ 10 年と思春期の子どもの子育て」

総会の終了後、北海道教育大学札幌校教授平野直己先生をお招きして「講話と意見交換会」を開催しました。当会が主催をしている環境づくり親子キャンプは余市教育福祉村で 2013 年から平野先生に企画・運営をお願いしてきました。コロナ禍以降、デイキャンプでの実施が続いていますが、毎年 100 名ほどの親子、学生ボランティア、スタッフが参加して行われています。平野先生が親子キャンプに参加する子どもたちのようすや成長を振り返りながら、思春期の子どもたちどう向き合ったらいいのかをお話くださいました。

スライドを見ながら余市教育福祉村の自然の中でギターや打楽器のリズムが流れる雰囲気、落書き自由の壁や石などのアートが紹介されました。子どもたちは丘を駆け上ったりそれぞれがやりたいところへ行って遊びます。ブルーベリーを摘んで食べたり学生さんを標的に水鉄砲やホースの水かけをしたり思い思いの活動をします。

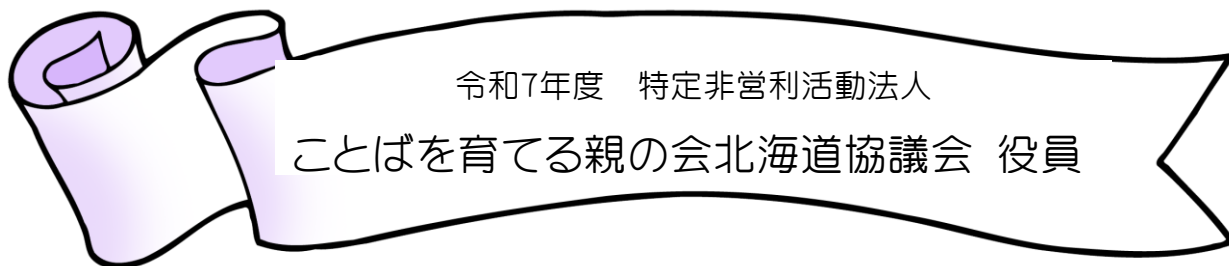
平野先生からは、「あそぶということ」「あそぶという心」というお話がありました。AI（人工知能）だったら「あそび」についてなんと答えるだろうかという問答形式での平野先生と AI の会話が続きます。自分の意思で始める「あそび」は自分のためにするもので、身体や情緒や社会性、心の発達に不可欠な活動ですが、知識や情報を得意とする AI にはどうも「あそび」はお手上げな分野のようです。親子キャンプは、親にとっても子育ての中での「あそび」であり、子どもを愛でる、自分の子が可愛い、を感じる時間であり空間であると平野先生はおっしゃっています。「ことば」も「あそび」というお話が心に響きました。なるほど、ことばも自分の意思で自分のために使い、心やコミュニケーションを成長させるものなのだとつながっていきました。

キャンプに参加する子どもたちの中にはリピーターもいて思春期を迎え、キャンプの中でもさまざまな行動や衝突を見せます。思春期の課題である自立という話題になりました。「依存しないのが自立なのか？」そう先生は問いかけられました。その中で脳性まひを抱え、東京大学へ進学し当事者研究をされている熊谷晋一郎さんのことに触れ、熊谷さんの考える自立についての話が紹介されました。私たちは髪が伸びたらどうするか、歯が痛くなったらどうするか。人は必ず誰かに頼って生きている。たくさんの依存先を増やすことが自立なのではないか。親だけしか頼らない、学校だけに頼っているのではなく、いろんな人に頼って生きていくという見方を示されました。

自立とは interdependence（平野先生の訳では“お互いさま”）なのだという視点は、お互いが信じ合い安心できることが基盤にあるからだと感じました。平野先生は、思春期という親から自立する時に、できるだけ多くの頼れる人との出会いがあるかが重要だと強調されました。

講演を聞きながら、それぞれの立場で頼り合えるお互いさまの環境を作っていくことが自立した生き方なのだと感じました。大事なことが心に響く余韻いっぱい時間でした。

（文責 理事 太田 眞知子）



令和7年度 特定非営利活動法人

ことばを育てる親の会北海道協議会 役員

顧問	跡部敏之	土谷さとる	高井祐二	坂本 武
	福光哲夫	福井紀郎	石川俊男	
相談役	山根 勸	谷口恵美子	谷口大朗	
会長	山本光子			
副会長	齋藤寛子			
理事	福島美恵子	太田真知子	瀧澤 聡	
監事	菅原有美	秋本ひとみ		
事務局長	(未定)			
事務局次長	丸山大樹			
事務局員	高田慶子（会計）	二階堂紀子	佐藤美紀	竹森陽子
	市川すみれ	横山昌子		
事務局校	札幌市立中央小学校、札幌市立清田小学校、札幌市立前田小学校 各ことばの教室			

ありがとうございました よろしく願いいたします

- ・事務局の会計担当が沓澤真喜子さんから高田慶子さんになりました。
沓澤さん 6 年間ありがとうございました。
- ・事務局員の赤坂玲先生、森田希先生が転勤により退任されました。
二階堂紀子先生、横山昌子先生が新しく事務局員になりました。



理事会報告



▼ 第96回 3月8日（土）

WEB 茶話会の振り返りと次年度の活動計画と予算、総会の準備の分担、意見交換会について検討しました。欠員理事の選任については継続審議になりました。

▼ 第97回 4月12日（土）

全国大会の大会負担金、総会議案書、意見交換会についての確認を行いました。

▼ 第98回 5月17日（土）

総会の反省、今後のスケジュール、業務分担の確認、会報計画についての検討を行いました。全国大会の参加は瀧澤理事が出席することになりました。夏以降、全道大会についての検討を行うことになりました。

事務局からのお知らせ

今年度の事業

御参加、御協力
お願いします！



◆特別支援教育研修会（道言協との共催）

- ・期 日 7月17日（木）～8月7日（木） 動画配信
- ・講 師 牧野 泰美 氏（国立特別支援教育総合研究所 上席総括研究員）
- ・内 容 ことばの教室の在り方、子どもを見る視点
- ・申 込 北海道言語障害研究協議会（道言協）のHPから申込ができます。
参加者には7月10日（木）以降にURLが届きます。
- ・参加費 会員は無料
- ・申込期間 6月中旬～7月9日（水）

◆親子デイキャンプ 開催要項は6月頃に各地区へお知らせします。

- ・日 時 8月23日（土）12:00～18:00
- ・会 費 開催要項にてお知らせします
- ・会 場 余市教育福祉村（余市郡余市町登町 636）
- ・参加対象 会員優先（一般参加も可）



海と山を望む丘で走り回ったりアートを楽しんだり思い切り遊びを楽しみましょう。
おいしいものもあります！大人ものんびりゆったりリフレッシュしましょう！

◆ちょっとだけ元気を！プロジェクト 過日各地区に御案内を送付しました。

- ・目 的 各地区の交流会、学習会の補助事業
- ・補助金額 2地区を対象に各15,000円
- ・申 込 道事務局まで
- ・応募締切 6月30日（月）



◆茶話会【きずなサロン】（WEBと対面） 詳細については後日御案内をします。

- ・日 時 毎月1回（火曜日）
- ・対 象 親の会会員
- ・参加方法 Zoomによるオンライン参加と対面参加
- ・会 場 対面の場合は札幌エルプラザ4階 男女共同参画室
- ・担 当 齋藤 寛子（道親の会副会長）



◆ ことばの教室 ほっと相談室 過日各地区に御案内を送付しました。

- ・日 時 8月20日(水) 14:00 ~ 16:00
- ・対 象 ことばの教室担当者
- ・開催方法 Zoomによるオンライン
- ・コンサルタント 瀧澤 聡(道親の会理事) 太田 眞知子(道親の会理事)



会計より

- 地区分担金の送金先は次の通りです。今月お送りした書類に同封した赤色振込票をお使いください。

(ゆうちょ銀行のATMを利用して、通帳またはカードで振り込む場合のみ手数料が無料となります。現金による振込等の場合は手数料が発生しますので、御負担をお願いいたします)

- 個人、法人、団体の寄付をお願いしています。

当会の活動の趣旨に御賛同いただける方の御協力を呼び掛けています。送金の場合は振込用紙の通信欄に「寄付」と御明記ください。よろしくお願いいたします。

郵便振替	口座番号 02790-5-□□44186 加入者名 NPO法人ことばを育てる親の会
郵便貯金 口座振込み	記号 19030 番号 32430171 口座名 特定非営利活動法人ことばを育てる親の会 北海道協議会
銀行	北洋銀行 北7条 支店(店番 312) 口座番号 3527965 受取人 特定非営利活動法人ことばを育てる親の会 北海道協議会 会長 山本 光子

その他

- ♥ 「会報」の記事についての御意見、御感想をお寄せください。「図書紹介」でお薦めの本がありましたら、御投稿をお願いいたします。

HSK 会報 昭和48年1月13日第三種郵便物承認(毎月10日発行)

2025年6月10日会報190号(HSK通巻639号)

発行人 北海道障害者団体定期刊行物協会(HSK)

編集人 特定非営利活動法人

ことばを育てる親の会北海道協議会 会長 山本 光子 定価100円(会員分は会費に含む)

連絡先 〒060-0041 札幌市中央区大通東6-12 札幌市立中央小学校ことばの教室内 TEL 011-241-2533